

For C-Suite, R&D Leaders, and IP Directors

知財情報を「読む」から 「直感的に見る」時代へ

次世代AIプラットフォーム『Patentfield』がもたらす
パラダイムシフトと戦略的導入プレイブック



エグゼクティブ・サマリー：本資料の3つの重要視点



1. パラダイムシフト (The Shift)

膨大な特許の「全文熟読」を撤廃。8,000万件の事前構造化とハイブリッドAIにより、知財情報を直感的に「見る」体験へ昇華。



2. 圧倒的な信頼性 (The Trust)

生成AI特許訴訟の合法的決着（2026年4月）と経産省「GENIAC-PRIZE」受賞が証明する、エンタープライズ導入に耐える法的・技術的安定性。



3. 戦略的プレイブック (The Playbook)

トークン消費を最小化する多段階フィルタリングと、コストが急減する「5ID (Corp-XS)」を活用した全社導入アーキテクチャの確立。

知財調査のパラダイムシフト：レガシー vs 次世代標準

	従来の特許検索システム (Legacy)	Patentfield (Next-Gen)
検索手法	複雑な論理式と特許分類への依存	自然文による「文脈検索」 (適合率約3.8倍向上)
読解プロセス	数百件の公報テキストを1件ずつ熟読	用途・課題・効果の「AIサマリー」で瞬時に俯瞰
評価指標	ブラックボックス化された固定スコア	38項目以上を自在に組む「ホワイトボックス型 PFスコア」
対象ユーザー	知財部門の専門家のみ	経営層、R&D、事業企画を含む全社の「共通言語」へ

法的安定性と公的評価：エンタープライズが安心して導入できる事業基盤

2024年秋

国内初の「生成AI×特許情報」特許権侵害紛争が勃発。
対象はAIRの一部機能。

2026年4月

民事調停法17条決定による
歴史的決着。裁判所の決定
に基づき通常実施権（ライ
センス）を取得。

[Impact]

ユーザーの機能停止リスクが
法的に完全消滅。

2026年4月

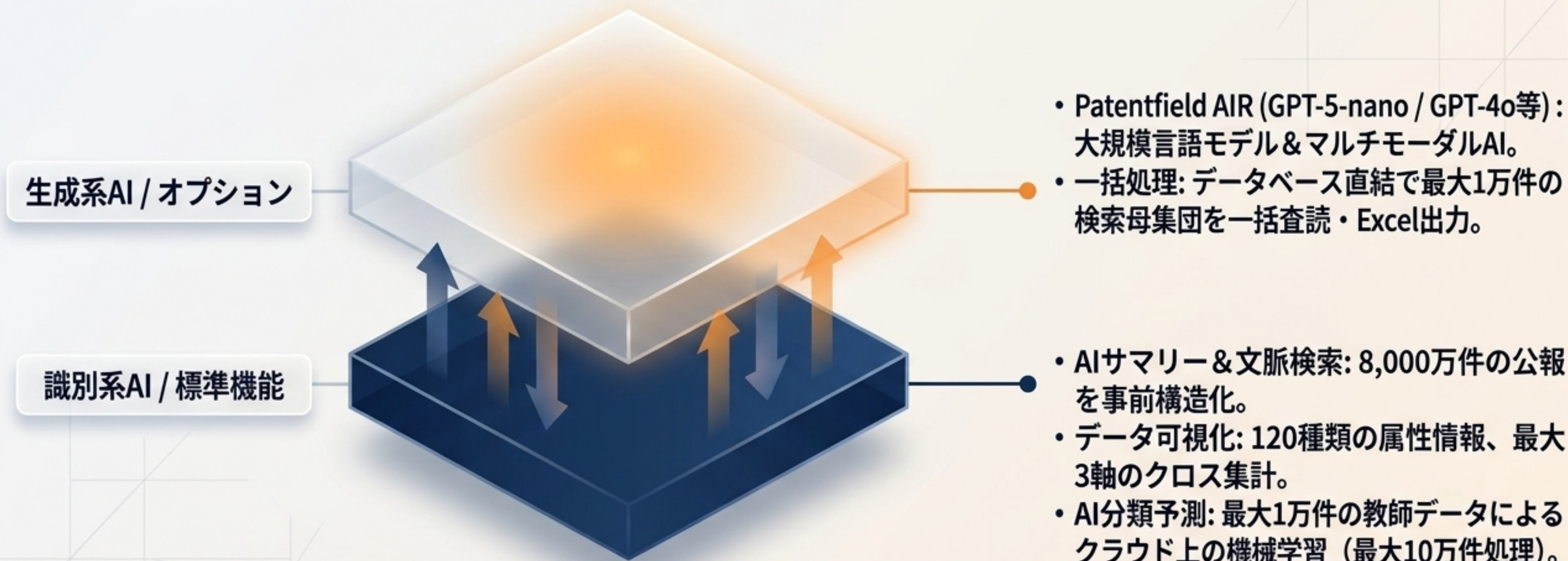
経産省・NEDO「GENIAC-
PRIZE」特別賞（技術新規
賞）を受賞。

[Impact]

官公庁の審査業務にも耐えうる
圧倒的な技術的独創性の証明。

訴訟決着と公的評価により、コンプライアンスを重視する上場企業や公的機関が
一切の懸念なく「生成AIオプション」を導入できる環境が確立されました。

プラットフォーム全体像：ハイブリッドAIの二層アーキテクチャ



Key Takeaway: 単なるAPIラッパーではなく、統計的機械学習と最新の生成AIが単一プラットフォーム上で有機的に統合されています。

革新 1: 約8,000万件の構造化と「文脈理解」の飛躍

専門用語（クレーン用語）に依存した検索の限界を打破。 AIが自然文の意図を深く理解し、検索適合率を「約3.8倍」へ向上。



ユーザーは公報の全文を読み込むことなく、一覧画面上で発明の核心を瞬時に「見る」ことが可能。
スクリーニング段階のノイズ排除と調査漏れを極めて高い次元で両立。

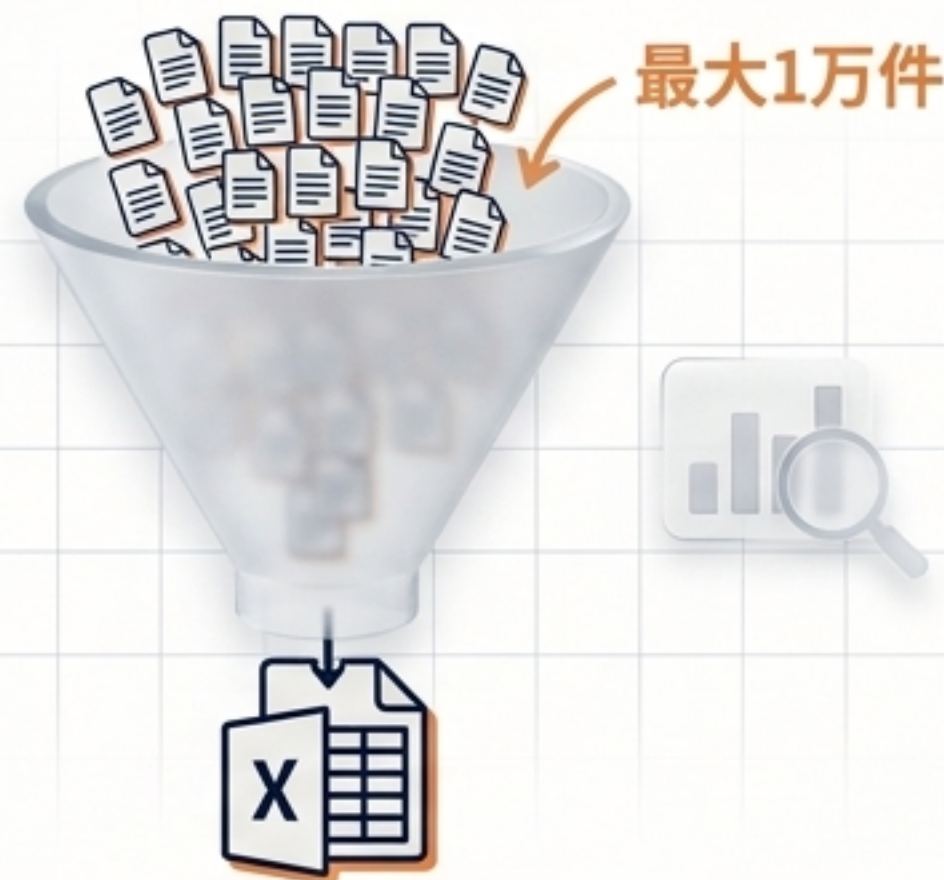
革新 2: 『Patentfield AIR』 がもたらす深掘り査読の自動化

一般的な対話型AI



1件ずつのテキスト入力。手作業の限界。

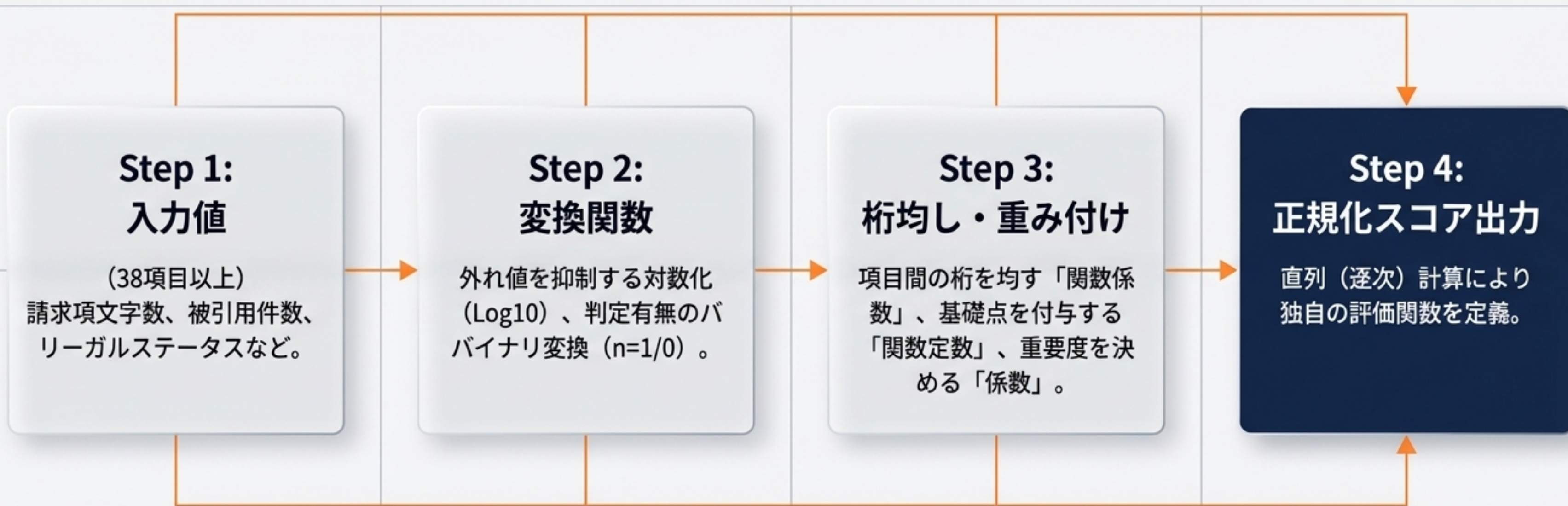
Patentfield AIR



- ・データベース直結の一括処理：最大**1万件**の検索母集団に対し、一括でプロンプト (査読条件) を適用。
- ・マルチモーダル画像認識：公報内の図面や明細書中の表データをAIが認識し、テキスト化・リスト化（化学組成や物性数値の抽出）。
- ・クレームチャート自動判定：請求項案の各構成要素が先行文献のどの段落に記載されているかを自動特定。

圧倒的な生産性：SDI調査、出願前調査、競合分析にかかる時間を「**最大65%削減**」。

革新 3: ホワイトボックス型「PFスコア」の数理的評価エンジン



単なる「件数の積み上げ」ではなく、自社の評価目的（M&A対象の強靱性、訴訟リスクの炙り出し）に合致した極めて精緻な定量評価モデルをノーコードで構築可能。ブラックボックス型ツールからの完全な脱却。

戦略的プレイブック 1: コストを温存する「多段階ハイブリッド・フィルタリング」



Stage 1: 広域母集団形成（最大50万件）

手法: AIサマリー文脈検索。無制限・無料機能で漏れなく抽出。

Stage 2: 一次フィルタリング

手法: AI分類予測（教師あり機械学習）。明らかなノイズを追加コストゼロで排除。

Stage 3: 精密一括査読（コア母集団）

手法: Patentfield AIR（生成AI）。真に関連する特許にのみGPT-5-nanoのリソースを集中投下（クレーム対比・表データ抽出）。

Stage 4: 最終評価と統合

手法: 査読アシスタント & PFスコア。原文照合と重要度評価の統合。

Strategy Note: 最初から生成AIに大量の文献を投入し、処理枠を浪費してはいけません。機械学習（無償）と生成AI（有償枠）の連携がROI最大化の鍵です。

戦略的プレイブック 2: 顧客課題を起点とするIPランドスケープ (IPL)

Problem Statement:

従来の特許マップ（技術分類 × 出願人）は、事業部門に対して「どこに市場ニーズがあるのか」を提示できない。

The Solution:

- AIサマリーに標準収録された「用途ラベル」と「課題ラベル」をクロス集計の軸に設定。
- 技術用語を知らない経営陣にも一目で伝わる市場ニーズ起点の可視化。

Next Action:

注目領域が特定された後、Patentfield AIRの「ポートフォリオ分析」で競合の開発戦略を階層的なマインドマップとして自動生成。数十分で重厚なIPLレポートの骨子が完成。

用途
(Uses)

ホワイトスペース
(事業機会)

レッドオーシャン
(競合集中)

課題 (Problems)

戦略的プレイブック 3: PFスコアの「罠」を回避するカスタム数理設計の極意



検索スコアの切り離し

罠 (Trap)

1行目に何も設定しないと、検索クエリのマッチ度が加算され客観性が損なわれる。

極意 (Solution)

1行目には必ず「定数(C)」を置き、演算子を「=」に固定し、純粋な法的・技術的価値のみを抽出する。



桁数正規化と対数変換

罠 (Trap)

「文字数」と「被引用件数」をそのまま足すと、桁の大きい文字数にスコアが完全に支配される。

極意 (Solution)

外れ値には対数(Log10)を適用し、「関数係数」を用いて最大寄与度が同等スケールになるよう桁を均す。



減衰関数の配置場所

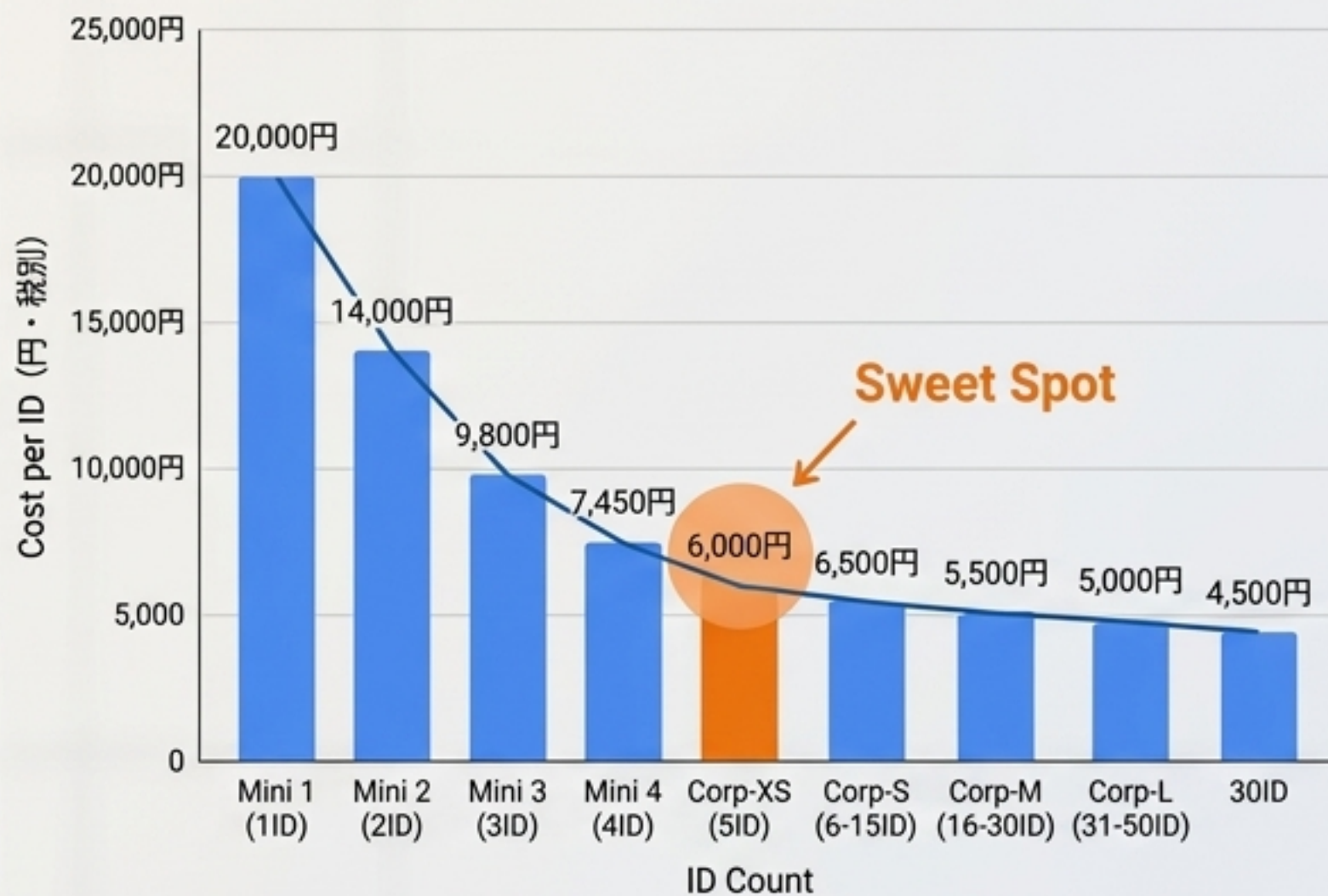
罠 (Trap)

PFスコアは「上から1行ずつ順番」に計算されるため、途中に日数減衰を入れると下の行に反映されない。

極意 (Solution)

経過日数に応じた減衰関数は、必ず算出条件の「最下部（最終行）」に配置する。過去時点へ遡及算出は不可。

コスト構造の解剖：なぜ「Corp-XS (5ID)」が圧倒的なスイートスポットなのか



The Insight:

料金テーブルの非線形な構造を利用した戦略的な契約設計。Mini 4 (4ID: 月額29,800円) からわずか+200円で、圧倒的な付帯価値を持つCorp-XS (5ID: 月額30,000円) へ移行可能。

Corp-XS Value Unlocks:

- **単価の急減:** 1IDあたりの実質単価が7,450円から一気に「6,000円」へ低下。
- **SLAの飛躍:** 電話サポートが解放され、メール回答も5営業日から「2営業日以内」へ短縮。
- **初期費用の相殺:** 導入後オンライン説明会（通常1万円）が1回無料付帯。
- **組織拡張性:** 海外特許を日本語分析できる「AIサマリーグローバル」や「作業グループ共有」オプションが解放。

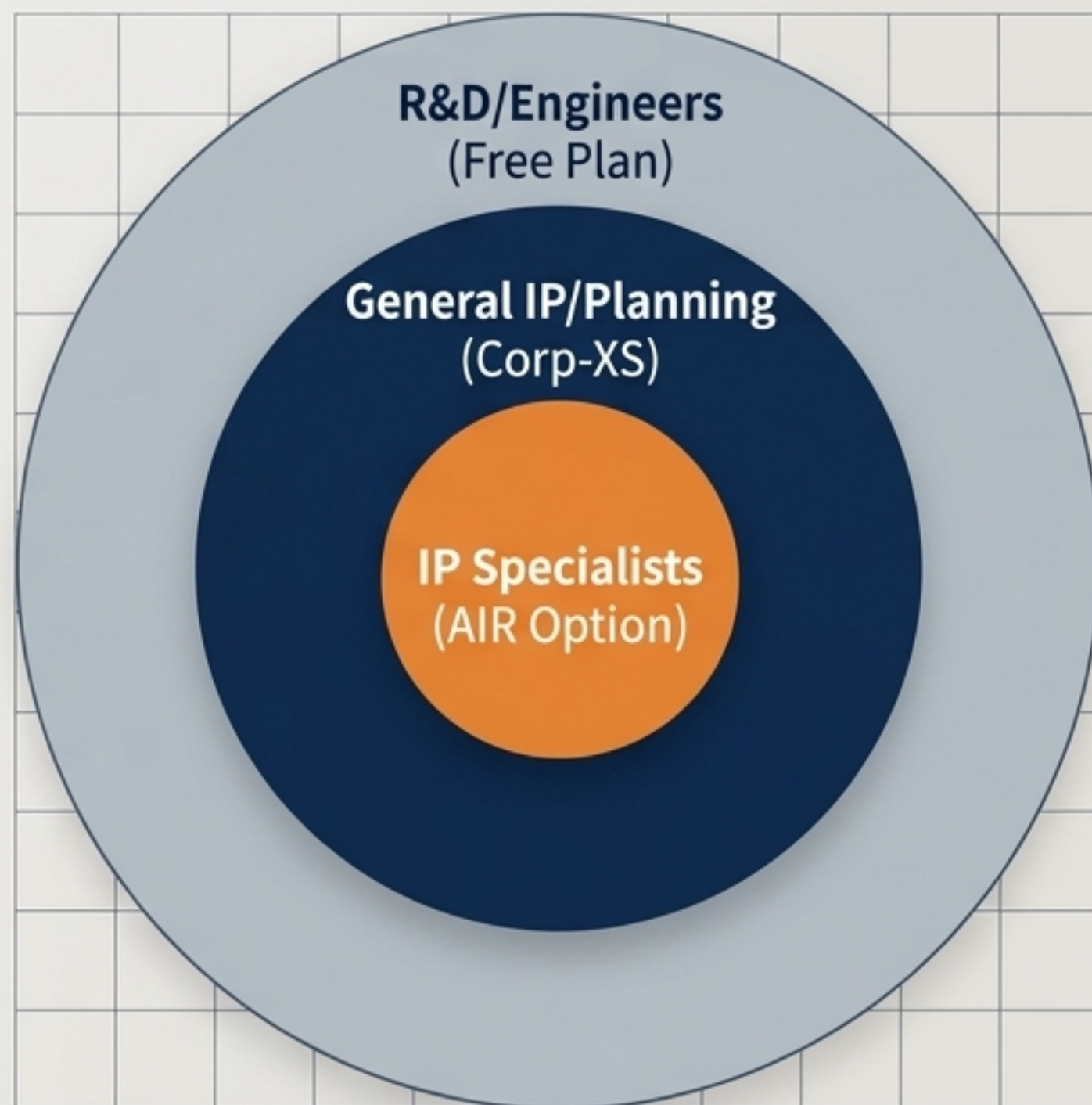
スケーラブルな料金体系とモジュール型拡張オプション

	Free	Mini 1-4	Corp-XS~	AIR オプション
月額料金（税別）	0円	14,000円~29,800円 （中小割引あり）	30,000円~	+30,000円/ID
分析母集団上限	1,000件	500,000件	500,000件	-
機械学習 チューニング	週5回	週50回	週50回	-

特記事項

- ・ Patentfield AIR: 月額3万円枠で約2万件処理可能（GPT-5-nano使用時）。
- ・ AIサマリーグローバル: Corpプラン限定。月額料金の30%（Corp-XSならわずか+9,000円で5名全員に適用）。

全社知財アーキテクチャ：TCOを最小化する最適配置の青写真



Role 1: R&D・企画部門の技術者

配置: Freeプラン（月20回検索）またはCorp共有ID

目的: アイデア探索・出願前セルフチェック。自然文検索による車輪の再発明の回避。

Role 2: 知財部員・シェアードサービス

配置: Corp-XS（5ID：月額3万円）

目的: 定常調査（SDI）・IPL作成。機械学習と独自PFスコアを用いた高精度スクリーニングと組織横断の基準統一。

Role 3: コア専任調査員

配置: 特定IDのみに Patentfield AIR（+3万円/ID）を付与

目的: クリアランス・FTO調査。図表認識とクレーム対比の一括実行により、高難度業務の時間を最大**65%**削減。

結論：知財インテリジェンスの新たな業界標準へ



8,000万件の「AIサマリー」、高精度な「機械学習」、そしてホワイトボックス型「PFスコア」。
これらを統合した基盤上で、最大1万件を一括査読する「Patentfield AIR」が稼働します。

- ✓ 特許紛争の全面的なライセンス解決と「GENIAC-PRIZE」受賞により、法的・技術的安全性は成熟の域に達しました。
- ✓ ハイブリッドAIによる多段ワークフローと、「Corp-XS」を軸とした戦略的アカウント設計こそが、
貴社の投資対効果を最大化する最良の選択です。

**従来の「読む」苦役から解放され、直感的に「見る」インテリジェンスの時代へ。
貴社の知財戦略を次の次元へシフトさせる時が来ました。**